

## 第6回「学びの変革」委員会

## 出席者

校長(委員長)	○	教 頭	○	総括事務長	○	主幹教諭	○
指導教諭	○	総務部長	○	進路指導主事(中核教員)	出張	実践推進リーダー	○
教務主任	○	1学年主任	休	2学年主任	○	3学年主任	○

## 1 校長から

市川モデルの両輪を意識し、教科の授業においても課題発見の授業を取り入れていくこと。

学びの変革とは、「教えの変革」である。学習者基点で考え、評価ルーブリックも学ぶ立場での捉えという視点で取り入れていく。学習者基点でもう1つは、互見授業においても授業を受ける視点で見るといふことも必要である。

## 2 カリキュラム実践

## (1) 実践推進リーダー

ア カリキュラム実践 1年次生では、伊勢志摩サミットの新聞記事においてリード文を消したものを提示し、生徒にリード文を考えさせるということをやっている。これで新聞記事の読み方と、要約文の作り方の育成を目指している。また、自分たちで環境・経済など、深めたいことを出させ、グループごとに視野を広げたり深めたりしていく。そのことを通して、課題の解決策を考えさせ、それでよいのかということ議論させる。これでグローバル課題は終わりである。次にローカル課題に移るが、グローバル課題と共通する課題を考えさせる。

## イ 外部講師招聘計画(年間)

・テルモ株式会社 顧問 中尾 浩治 様

・地域づくりとして、実務な地域課題・活性化・地方創生をテーマにし、実際に旬の人に話を聞く。尾道のローカルとして、大学の先生や、尾道で活躍している人を招くのもよいのではないか。グローバルで広い視野で考えさせ、ローカルな視点に絞っていく。

## (2) 教育研究部から2・3年次生の状況報告

2年次生産業社会と人間では、7月の研修旅行に向けたパネルディスカッションの準備及び企業・大学・研究室訪問の「研修のしおり」を作成している。また、マナー研修を進めている。

3年次生課題研究セミナーグループ学習を行い、論文作成の最終段階である。グループ学習を行う場合に、グループ内の役割を明確にしておくことが必要である。

## 【意見】

尾道北高生であればこれくらいのことではできなければならない。という、身につけるべき知識・技能としての「尾北検定」を取り入れて早い時期に生徒に取り組みせておくこと。例えば、今年度では「ええじゃんさんさがり」は行っているので、

2年では、マナー検定・電話のかけ方・名刺交換・挨拶の仕方

3年では、面接試験の受け方

が挙げられる。

「ES」指導案 ー7回ー

	地域探究Ⅰ ローカルエクスプロアリングⅠ (LE-Ⅰ)
日時・場所	6月24日(金) 6限 HR教室
担当者	担任・副担任
単元	「グローバル課題の発見③」
単元の目標	「伊勢志摩サミット」を題材にし、グローバル課題を発見する。
本時	伊勢志摩サミットに関連したグローバル課題について、自身の進路選択の一つとして考えを深める。
本時の目標	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、表現することができる。
育成すべき 資質・能力	情報活用能力, 分析力(思考力), 課題発見・課題設定能力
導入	①前回の授業の確認(5分) グローバル課題について前回の授業で選択した分野ごとにグループをつくる。
展開	①それぞれのグループごとにグローバル課題についてのテーマを一つ決め、それに関する具体的な解決策をグループで考察する。(20分) 例：環境グループ テーマ「地球温暖化」 具体的な解決策「こまめな電源のオン・オフ, 環境に優しい製品の開発」 ※具体的な解決策は、今できること以外にも、将来できることも含めて考えさせる(自身の進路選択の一つの参考にさせるため。) ②タップス(他グループの意見を聞く)(10分) 興味のある分野でのグループを解散し、ランダムにグループを形成することで、他グループでの話し合いや意見を共有する。
まとめ	○まとめのワークシートを配布する。 ①自己評価(10分) グループでの協議や他グループでの話し合いを通して、将来自分が解決したいグローバル課題の一つを選び、その解決のためにはどのような働きかけや、仕事があるかを考えて、自己評価にまとめる。
本時の 留意点	グローバル課題を発見するとともに、自身の進路選択の一つの参考資料にさせるために、「将来的に解決するための方法」を意識させる。
評価	ループリック表により、自己評価を行う。
資料	パワーポイント資料, ワークシート
事前準備	ループリック表
その他	

Slide No. 1 知の融合 尾北イノベーション

**第7回 ES グローバル課題の発見**  
 ★先生の指示に従って、  
 分野ごとのグループを作ってください！



Slide No. 2 知の融合 尾北イノベーション

**★本時の目標**  
 グローバル課題を自分ごととして考え、  
 その課題を解決に向かわせるために  
 自分なら何ができるかを考え、  
 表現することができる。

Slide No. 3 知の融合 尾北イノベーション

**★本時の活動①**

- ① A3の紙の中央に、  
 分野ごとの「グローバル課題」の  
 テーマを一つ書いてください。
- ② そのテーマについて、グループごとに  
 「課題を解決するために、  
 自分にできることは何か？」  
 を考えて、考えを深めていってください。

Slide No. 4 知の融合 尾北イノベーション

**★本時の活動②**

- ① グループごとに、ホスト1名を残し、  
 他の生徒は他グループの考えを  
 聞きに行ってください。
- ② 他グループの考えをもとのグループで  
 紹介して共有しよう。

Slide No. 5 知の融合 尾北イノベーション

**★本時の活動②**

★まとめのワークシートに沿って、  
 自身の活動を振り返ろう。



6月24日(金) ES まとめワークシート  
1年 ( )組 ( )番 氏名( )

1, 活動のまとめ

本時の活動をまとめよう

A: 自分たちのグループの話し合いで, 考えたこと, 感じたこと

--

B: 他のグループの考えを聞いて, 考えたこと, 感じたこと

話を聞いたグループ	考えたこと, 感じたこと

2, 自分とのかかわりについて

本時の活動を通して, グローバル課題にはどのようなものがあり, それに対して, 自分自身がどのような働きかけができるでしょうか?

今現在できることでも, 将来できるかもしれないことでも良いので, 考えたことをまとめてみよう

--

### 3. 自己評価

S	A	B	C
グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、自らの体験や経験をもとに表現することができた。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、表現することができた。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考えることはできたが、表現が不十分であった。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考えることはできたが、表現ができなかった。

上記の表を見て、自身の活動に最も当てはまるものを、S～Cの中から一つ選び、○をください。

選んだ評価( S ・ A ・ B ・ C )

1年 ( )組 ( )番 氏名( )

# 自己評価シート

(活動日 月 日)

1年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1 単元名 グローバル課題の発見②

2 自己評価用ルーブリック

到達目標	S	A	B	C
グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、表現することができる。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、自らの体験や経験をもとに表現することができた。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、表現することができた。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考えることはできたが、表現が不十分であった。	グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考えることはできなかった。

3 「1 自己評価用ルーブリック」を用いて、本時の活動について自己評価しなさい。

到達目標	記号を記入しなさい。
グローバル課題を自分ごととして考え、その課題を解決に向かわせるために自分なら何ができるかを考え、表現することができる。	

4 本時の活動で理解したこと、質問、感想などを書きなさい。

--